

## 令和7年度高島市総合教育会議第1回会議録（要旨）

- 1 開催日時 令和7年9月24日（水）  
開会 午後1時30分 閉会 午後2時40分
- 2 開催場所 高島市役所 新館3階 会議室9
- 3 会議次第  
1. 市長あいさつ  
2. 会議録署名委員の指名 橋本委員、高木委員  
3. 議題  
(I) 第2期高島市教育大綱の計画期間の延長について
- 4 出席者  
(構成員)  
今城市長、川島教育長、橋本教育長職務代理、高木教育委員、森教育委員、地村教育委員  
(市長部局)  
前川子ども未来部長、加藤子ども未来部次長、三家丸子ども未来部次長、大森政策部次長  
(教育委員会事務局)  
饗庭教育総務部長、川原林教育指導部長、赤水スポーツ振興部長、吉原教育総務部次長（社会教育課長取扱）、前田教育総務課長、林教育総務課参事、中村教育総務課主任
- 5 会議を傍聴した者 0人
- 6 議事の経過 別紙のとおり

## 議事の経過

議題の公開／非公開 全て公開

### I. 市長あいさつ

#### ○今城市長（要約）

皆様こんにちは。高島市長の今城克啓でございます。本日は、令和7年度第1回の高島市総合教育会議ということでございます。川島教育長はじめ、橋本委員、高木委員、森委員、地村委員様の4人の教育委員の皆様には、日頃から高島市の教育行政全般にわたりまして大変なお力をいただき本当にありがとうございます。改めてお礼申し上げます。

皆様ご承知のとおり、先日、東京2025年世界陸上が国立競技場で開催され、16日には、男子800mに高島市今津町出身の落合晃選手が出場されました。この種目で日本人が出場するのは史上3人目、10代で言いますと、史上初めての出場ということで、高島市にとってもこれは大変なことであると考えております。この市役所で初めてのパブリックビューイングの試みをさせていただきましたところ、予想を上回る120人程の市民の皆さんに来ていただきまして、市民の皆様の思いを感じました。皆さんと盛大な応援をさせていただき、本当に素晴らしい走りを見せていただきまして、あののインタビューも19歳とは思えない本当に素晴らしいインタビューを含めて皆さんと共に深く感動いたしました。このようなこの地域の力、若い人の力を、これから地域づくり、高島市の発展のために繋げていきたい、繋げていけるんじゃないかなということも感じました。

そしていよいよ9月28日からわたSHIGA輝く国スポ・障スポ大会が始まります。高島市出身の方がたくさん選手として出場されておりまし、また併せて、関係者の皆様には、開催のためにたくさんの準備をいただき、本当に厚く感謝を申し上げたいと思います。精一杯私も応援してスポーツを盛り上げたいと考えております。

今日第1回でございます総合教育会議ですが、市長と教育委員会が構成員となりまして、教育大綱の策定に関する協議や教育の条件整備、また重点的に講ずるべき施策について、市長と教育委員会が一緒になって意思疎通を図りながら、地域のあるべき教育を共有し進めていくための大変大事な会議と考えております。

今日は、「第2期高島市教育大綱の計画期間の延長について」を議題とさせていただいております。教育委員の皆様にはそれぞれの豊富なご経験、ノウハウから忌憚のないご意見ご指導をいただきたいと思っております。有意義な議論となりますように、頑張りたいと思いますので、皆様のご協力をお願いしまして、挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

### 2. 会議録署名委員の指名

橋本委員、高木委員

### 3. 議題

#### (I) 第2期高島市教育大綱の計画期間の延長について

## 【説明】 前田教育総務課長

資料 「第2期高島市教育大綱の計画期間の延長について」により、次の事項について説明

### 1. 第2期高島市教育大綱の計画期間について

- ・現在の第2期高島市教育大綱は令和3年度から令和7年度までの5年間の計画となっている。
- ・一方、高島市の最上位計画である高島市総合計画は平成29年度から令和8年度までの10年間の計画となっている。
- ・教育振興に関する施策の方向性等を同一にし、整合性を取る必要があると考えることから、総合計画の内容を教育大綱に盛り込めるよう、現在の第2期高島市教育大綱を2年延長し、現計画の範囲内で必要な改定を行ったうえで、令和9年度までの7年間を実施期間としたい。

### 2. 日程について

令和7年9月	第1回総合教育会議	現計画の改定（2年延長）
令和8年1月	第2回総合教育会議	素案提示（計画改定）
令和8年2月	第3回総合教育会議	計画改定の承認
令和8年3月	政策調整会議	計画改定の報告
令和8年3月	議会全員協議会	計画改定の報告
令和8年4月	市ホームページで公表	計画改定の公表

### 3. 各種計画への影響について

次の計画については、高島市教育大綱を上位計画に位置付けていることから、高島市教育大綱を2年延長する場合は、整合を図る必要がある。

- ・高島市文化振興基本計画（社会教育課）※2017～2026の10年計画
- ・高島市スポーツ推進計画（市民スポーツ課）※2023～2027の5年計画

## 【質疑】

### ○橋本教育委員

延長しなくてはならない理由というのがどういうものなのか。また、延長しなかったらどういう部分で不都合なのか。そういう点を、具体的な例を挙げてお示しいただきたい。

### ○前田教育総務課長

令和8年度までの市総合計画に合わせ、令和7年度に終了予定の第2期教育大綱の計画期間を延長し、教育施策と市全体の施策を一体的に推進したいと考えています。具体案は未定です。

### ○高木教育委員

計画が延長されることで、小学校や中学校の運営とか先生の現場とか、予算などに影響はないのか。

○川原林教育指導部長

計画延長による影響や負担はなく、既存の取組を継続しつつ年度ごとの予算編成で対応可能と考えています。

○森教育委員

今回の延長によって、教育現場や市民にメリットがあると思うが、市内の小学校中学校において、これから先数年で、複式学級がどんどん進んでいくと思う。そういったものが教育現場で否応なく訪れることがあると思うが、この期間のところを見ても、「社会情勢の変化などを踏まえ、必要に応じて見直しがある」とあるが、そういったことにも柔軟に対応していくのか。

○川原林教育指導部長

委員仰せのとおり、柔軟に対応してまいりたいと考えています。

○地村教育委員

5年間を実施期間として策定されたところ、7年間に延長するということで、このめまぐるしく変わる社会情勢において、2年間というのはすごく大きなものだと思うし、また今までの5年間でも社会情勢がどんどん変わってきていると思う。それを踏まえて課題をここで議論する必要があると思うし、それを踏まえて見直しを行うということであるが、どのような点で加筆修正するのか。

○前田教育総務課長

教育大綱7ページの「目標5 スポーツに親しめる生涯スポーツ社会の推進」に関連し、今年度で終了する国スポ・障スポに関する表記修正を検討中です。また、毎年実施する事務点検評価に基づき、効率性や合理性の低い事業の見直しを進める予定です。

○今城市長

総合教育会議でそういった見直しが議題に上がることについて事務局としてどう考えておられますか。

○前田教育総務課長

教育大綱の成果・課題を検証中で、次回の総合教育会議で議論予定です。

○橋本教育委員

整合性をとるために2年間延長しなくてはならない状況にあるということは分かったが、重点を置かれているものがここで出せるのでしたらお願ひしたい。

○饗庭教育総務部長

次の総合計画策定に向け、AI対応や外国にルーツを持つ子どもの増加などの課題に取り組むことを想定していますが、具体的な見直し内容は今後の計画や現教育大綱の変化を踏まえ、2年間で取り組む内容を検討していく予定です。

## ○橋本教育委員

私は教育の現場にいたので、あくまでも自分の思いだが、例えば不登校であるとか授業にうまく入れないとか、そういうお子さんをたくさん見てきた。そのお子さんたちを何とか、その子が学習に臨む姿を持って欲しいなというふうに思ってほしいということで、尽力してきたつもり。ただそこにはやはり教員がいるし、それからその家のお父さんやお母さん親御さん達を何とかカバーする。学校ではできない力が必要だと思う。だから、子ども家庭相談課などにもいろいろお世話になった。やはり学校現場だけではなくて、今だと赤ちゃんの頃から幼稚園、保育園、いろんな方が関わってくださっていますが、そういうところで、もっとお母さん方、お父さん方、おうちの方、家庭環境で子どもが何も心配をしないで、学校へ行って自分の素を出せるような状況を高島市でもつくっていただきたいなと思う。

1回子どもが素の自分で動いて、自分が間違ったと思ったら、人に言われなくてもわかると思うので、今の手厚い高島市の人員の増加をお願いしたい。その子に関わる、その家庭に関わる子どもさんを二重三重のバリアで守ってほしいなというようなことを、僕は現場にいたときから思いました。

## ○今城市長

今おっしゃっていただきましたように、学校現場だけで全てのフォローができるわけでもないので、学校に安心して行けるためにも、保護者、地域が家庭内で手厚く子どものフォローしていくような、人員や体制とかそういうことが大事なのではないかということだと思いますけども、事務局でコメントありましたらお願ひいたします。

## ○川原林教育指導部長

ご意見を踏まえ、2030年実施の学習指導要領改訂に向けて課題を整理しつつ作成を進めてまいります。

## ○橋本教育委員

近年、地域学校協働活動がすごく活躍されていて、学校もものすごく助かっていると思う。現場の教員は授業、子どもに対することにかなりターゲットを絞れる。とってもありがたいと思う。それは続けていただきたい。

ただし、地域学校協働活動のメンバーの高齢化が進むので、今のPTAの方などが自分の仕事が終わった後で私も行ってみようかなと思えるような感情を持っていただけるといいなと思う。

## ○今城市長

今、橋本委員から、具体的に地域、家庭でどういったフォローしていくかっていうところの体制について大きなヒント、具体的なことをおっしゃっていただきました。地域学校協働活動の体制をPTAがフォローしていくっていうこと、そういったことの具体的な提案をいただきました。ありがとうございます。

教育長の方からコメントはありますか。

## ○川島教育長

高島市の教育大綱について、次期総合計画との整合性を持たせた改訂が必要とされています。現行の教育大綱では、「地域とともににある学校づくり」や「小中一貫教育」などが重要視されていますが、中江藤樹先生の教えや豊かな自然を活かした教育の展開が十分反映されていないため、これらを含めた新たな改訂を検討中。教育大綱は大枠の目標を示し、具体的な取り組みは毎年の重点施策「高島の志の教育」で詳細化して進めていく方針です。

## ○今城市長

ありがとうございます。わかりやすいご意見と回答していただきましてありがとうございます。ほかにご意見等ございませんでしょうか。

それでは、第2期高島市教育大綱の計画期間を2年延長することにつきましては、ご異議はございませんでしょうか。

## ○委員（異議なしの声）

## ○今城市長

ありがとうございます。それでは、ご異議がございませんでしたので、第2期高島市教育大綱の計画期間を2年延長することとしまして、委員の皆様からいただいたご意見につきましては今回の計画期間延長に伴う計画の改定作業に、内容を反映するように進めてまいります。

続きましてせっかくの機会ですので、意見交換の場を設けさせていただきたいと思います。

教育全般に関することでも結構ですし、教育全般以外の市に対する思いでも結構でございますので、忌憚のないご意見をいただければと思います。

## ○森教育委員

小中一貫教育というのは、高島市の教育の中核にされていると思うが、これまでの小中一貫教育で得られた成果、将来に向けた小中一貫教育の展望、何かイメージがあればお聞かせ願いたい。

## ○川原林教育指導部長

小中一貫教育の成果として、以下の点が挙げられます。

- 1.スムーズな移行と接続：小学校から中学校への滑らかな接続が可能になり、課題を共有し連携が向上
- 2.異年齢集団活動：中学校区ごとの特色ある取組が地域実態に応じて実施
- 3.高島プログラム：小中教員が合同で授業研究を行い、指導法や授業の質を向上
- 4.教科担任制の導入：専科教員が小学校でも指導を行い、専門性を活用し生徒指導面での理解を深める。
- 5.学習規律の整備：一貫したカリキュラムに基づき、発達段階に応じた指導を実施

今後は、施設隣接型や分離型の形態を含め、持続可能で無理のない形で取組を進める方針です。

## ○地村教育委員

防災教育として、近年各地域で防災訓練や要避難支援者の計画など、そういったものが出されて

いるが、やはり学校現場では、サイレンが鳴って運動場に出て人数数えてという形だけではなく、本当に現実的に地震が起こったときにどうするかということを全員が考えて自分の言葉を持って行動できるような防災教育であったり、語り部さんの話を聞くということでも、全く防災に対して違う意識を持つと思うので防災教育の充実、必要性について近頃感じるが、そういうことについてはどうか。

#### ○川原林教育指導部長

学校では発達段階に応じた安全指導を教科横断的に実施しており、防犯・防災、情報リテラシーなどが含まれます。防災教育では起震車を活用した地震体験や自身を守る方法を学ぶ機会を提供しています。情報リテラシーに関しては、今年度すべての学校で研修を実施。交通安全教室ではスクールガードリーダーによる講習や実際の下校指導を行うなど、実践的な取組が進められています。また、避難訓練も各学校で年間3回実施しており、実効性の向上を目指して指導を継続する方針です。

#### ○今城市長

委員ご指摘のように、今は日本列島稀に見る地震多発時代と言われており、地震については、いつ起こるかわからないという状況だと思いますので、訓練も含めた防災教育の重要性をご指摘いただきました。

#### ○川原林教育指導部長

学校では危機管理・防災マニュアルを作成し、安全点検や職員研修、家庭・地域との連携、地域ボランティアの協力を通じて児童生徒の安全を確保しています。高島学園では小中合同の避難訓練を実施し、学年ごとの集合から地域ごとに並び替えて帰宅する訓練を行い、引き渡し訓練も併せて小中一貫教育として地域と連携した取組を進めています。

#### ○川島教育長

湖西中学校では、地域住民と協力して、いざというときの炊き出し訓練を行っています。また、校長在任時には自衛隊との連携で防災講習を実施した経験があります。ただし、防災教育を授業に組み込むには、カリキュラムの限界や日程調整の難しさが課題です。防災や減災を小中学生に伝える重要性を認識しつつも、それを学校教育に組み込む工夫が必要だと考えています。

#### ○地村教育委員

他府県の高校で、防災を主軸に扱った学科で防災教育をされていたり、あと大学生のサークルでも防災女子といった若い子たちが防災の意識を高めて非常食の楽しい作り方などを研究しているので、紹介させていただいた。

#### ○今城市長

ありがとうございます。総合的な学習の時間など限られている中で、やはりしっかりとそれを進めていきたいというふうに教育長におっしゃっていただきました。

## ○高木教育委員

小中一貫教育について、今、小学校や中学校の子たちが保育園とかに出向いて、交流とかして、保育園から小学校に行くのにスムーズに、という活動をされているのは知ってはいるが、子どもたちもだが、もっと先生たちがそういう情報を共有できるように子どもたちが本当にスムーズに小学校に行って、小学校の先生たちが保育園の子や幼稚園の子たちのことを保育園の先生と忌憚なく何かそういう情報を交換して、一人一人を手厚く向き合っていけるようにこれからもお願ひしたい。今努力をしておられるのはわかっているが、小学校一年生の子らを見ていて、何となくまだちょっと壁に、小学校の一年生の壁にぶち当たっている子がいるのは確かなので、その辺先生たちの努力はわかってはいるが、これからもスムーズにいけるようにしていただきたい。

## ○今城市長

ありがとうございます。

保育園と小学校との教員も含めた連携についてでございます。

## ○川原林教育指導部長

幼稚園・保育園と小学校の連携が不十分を感じる中、新旭南小学校となのはな園が県指定の事業で授業交流を実施しています。今年度の成果を市内全体に広めたいと考えています。

## ○今城市長

幼小連携を新旭の公立のこども園とされているということですが、市内には私立園もありますし、広めていければという思いをお聞かせいただきました。

## ○川島教育長

小学校教員と中学校教員の文化の違いや課題を踏まえ、小中連携を強化し、より良い教育環境を築く重要性が話題となっています。特に高島市では、小規模校ならではのメリットを活かし、教員同士や子どもたちの繋がりを深める取組が進行中です。また、幼保小中連携の必要性にも触れ、地域ごとの状況を考慮しながら、より一貫した教育を目指しています。さらに、中高間の連携も進みつつあり、義務教育の枠を超えた継続した教育支援の構築を図っています。

## ○三家丸子ども未来部次長

先ほど述べられた保幼小連携について補足しますと、支援が必要な子どもに関する情報共有では、家庭相談員が学校の先生方に家庭状況を詳細に伝えたりしています。また、発達支援では特別支援巡回の先生が子どもの成長や必要な配慮について学校現場に伝え、本人や支援者への支援を行っています。

## ○今城市長

支援の必要なお子さんの連携、情報共有はとても大事だと思います。

## ○橋本教育委員

今の教育長のお話などを受けてだが、学校教育課の指導主事の中にも、保育園とか幼稚園、以前

おられたこと也有った。現場の保育士や幼稚園の教諭の方の現実を知っておられる方が、学校教育課の中で、指導主事の中でも、小・中は必ずいるので、そこで幼稚園としての視点で、いや実はこうなのだと。縦断的に幼稚園でこうだった子は小学校ではこうだ、今までの支援はこうだった。カルテがあるので、その子の幸せを感じられるような視点がたくさんあればあるほどいいと思う。難しいと思うが、出来れば学校教育課の方に幼稚園の資格を持った方が入られた方が視点が違うと思う。

○今城市長

ありがとうございます。貴重なアイディアいただきました。

○川島教育長

以前新旭で公立幼稚園があった時代には、学校教育課にも幼稚園の先生に入っていただいた時もありましたが、今はこども園ということで、学校教育で管轄しないという位置づけになってしまった。以前は入っていましたが、それ以後は学校教育課の中に、幼稚園の先生が入っていないというのが現状です。繋がりもよくできだし、色々な情報も入り、連携も繋がったと思うのですが、管轄が変わってしまった。

○地村教育委員

一巡目国体もウエイトリフティングと銃剣道があって、高体連につきましては多分安曇川高校と堅田高校に部活動がある。小学生中学生が高校生から指導を受けウエイトリフティングを体験したら、裾野が広がるかと思うし、教えた体験から教職を目指すというような学生が生まれたらとも思う。

社会体育の一面で、国スポが開催されたことをきっかけにイベントであるとか、記念大会を引き受けるとかいうのは考えているか。

○赤水スポーツ振興部長

市内では、昭和56年のびわこ国体以来44年ぶりとなるウエイトリフティング、銃剣道、高校野球軟式、ソフトボールの大会が開催されています。地元の指導者や教員らが長年競技を支え、スポーツ少年団を通じて地道に活動を続けた成果として、全国で活躍する選手を輩出するまでに至っています。

国スポ終了後の来年はウエイトリフティングのインターハイの受け入れが決定しておりますし、毎年私立学校のソフトボール大会の受け入れをしており、7年に一度全国大会の受け入れもさせていただいているなど、「見る」「する」「支える」スポーツの機会を提供しています。加えて、市内学校の生徒を大会補助や観戦に参加させる方針で、スポーツへの関心を促進し、地域の協力を得ながら運営しています。

○今城市長

スポーツへの中学生の関わりというのはすごく大事だと思っておりまして、ちょうど落合晃選手も、今の中学生からみると先輩みたいな憧れの存在なので、国スポもそういうきっかけになればいいなと私も思いますしそのように取り組んでまいりたいと思います。

### ○森教育委員

保護者たちは学校のことだとか、教育というよりも、自分の子どもたちが将来小学校に入り、また中学校に入ったときに、色々な情報を保護者同士で共有したりして、また違う学区の保護者と情報交換していることを思ったり意見があると思うが、実際そういう意見はなかなか市や教育委員会には、よほど何かがないとなかなか伝わらないと思う。学校だ、懇談会などの機会があるが、どうしても生徒そのものの話になる。小学校中学校こども園からしてもそうであるし、今こども園に親が先々わかっている、近い未来に子どもが学校に上がるとき不安や希望などもあると思う。

今現在、そういう情報を吸い上げるシステムとか、そういうことも必要かなと思う。

### ○川原林教育指導部長

それぞれ保護者から学校へ上がってきた意見につきましては教育委員会でも確認させてもらっておりますし、また園から小学校の接続については十分に連絡会の方で、それぞれ重要な案件とか、そういうことについては必ず学校を通じて共有しております。

### ○今城市長

学校から教育委員会そういう連携をとりながら情報連携をしていくということですね。もうされていますし今後もしていきたいということでございます。

### ○前川子ども未来部長

こども園では、保護者の送り迎えやバス利用時に先生や保護者との情報交換を行い、保護者との繋がりを確保しています。これにより、子どもたちのフォローができていると感じています。

### ○今城市長（要約）

長くなりましたが、本日、教育大綱の延長と見直しにつきましても貴重なご意見をいただきましたし、フリートークの部分でもたくさんの貴重なご意見をいただいております。小中一貫教育から始まりまして幼小中連携の重要性についての議論がとても多かったと思います。

学校現場だけではなくて教育委員会、そういうところもしっかりと一緒に協力していく重要性ということを教えていただきました。もちろん支援が必要な子どもさんの共有というものも一層大事かなというふうにも思います。そして防災防犯やスポーツについてもご意見いただきました。

今本当に大事な分野につきまして、多くのご指摘ご意見をいただいたと思いますので、そういうご質問ご意見につきまして、今後のこれから教育行政の推進にしっかりと活かして取り組んでまいりたいと思いますので、これからも、委員の皆様にはお知恵、お力をいただきますようにお願いします。

それでは本日の議題につきましては以上とさせていただきます。